

## 神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	1 年
講義日	令和 5 年 4 月 13 日(木)		
テーマ	文化人類学と異文化理解—オセアニアを中心に		
講 師	神戸大学名誉教授 吉岡政徳		
<p>講義内容</p> <p>本講義は、以下の内容で進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 文化と自文化中心主義              私たちは、無意識のうちに自分が生まれ育ったところの文化的フィルターを通して、異文化を見てしまいます。こうした色眼鏡を通して異文化を見てしまうことを、自文化中心主義と呼びます。ここでは、こうした「偏見」が生まれる背景を考えていきます。</li> <li>2 進化主義から文化相対主義へ              進化主義という視点は、すべての社会は未開から文明へと進化していくという考えかたに基づいたものですが、この考えは文化相対主義という視点によって批判されたました。ここでは、こうした考え方の推移について考えます。</li> <li>3 フィールドワークと人類学              文化相対主義を実践するのが、フィールドワークと呼ばれる長期の現地調査です。他の分野でのフィールドワークと文化人類学のそれとどう違うのかを考えます。</li> <li>4 オセアニアとは              オセアニアというのは太平洋地域を指すのですが、ここでは、私がフィールドとしているオセアニアの人々と暮らしを紹介します。</li> <li>5 「辺境としてのオセアニア」イメージ              オセアニアは常に辺境のイメージで語られてきました。その最たるものが人食い人種のイメージです。ここでは、このイメージを創り出す色眼鏡の元凶を考えます。</li> <li>6 真実のオセアニア              色眼鏡を取り去ったら見えてくる本当のオセアニアの現在の姿を見ていきます。</li> </ol>			
<p>講師からのメッセージ</p> <p>質問があったら、私の話を中断してもかまいませんので、その場で手を挙げてください。質問への回答を先にしてから、話を続けます。</p>			

## 神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	1年
講義日	令和5年4月28日(金)		
テーマ	韓国社会と文化の理解		
講 師	神戸女学院大学非常勤講師 金泰賢(キムテヒョン)		
講義内容			
<p>第1部 韓国社会の全般について</p> <p>韓国は、1950～60年代には世界でもっとも貧しい国の一つでしたが、最近では世界10位前後の経済規模(GDP 基準)を持つ国にまで成長しました。ところがこのような経済の高度成長の裏には激しい競争や貧富の格差など様々な社会問題を残してきました。この授業では韓国社会全般の変化の過程や現状、問題点などについて幅広く紹介します。</p> <p>第2部 韓国の食文化について</p> <p>大型スーパーに置いてある色々な種類のキムチや韓国のお酒、外国の加工食品を扱っている店に必ずおいてある韓国のインスタントラーメンやレトルトのサムゲタン(参鶏湯)、テレビのショッピングにたびたび登場する韓国風調味料、韓国の食べ物だけを扱う専門のスーパーなど、韓国発の「食」はすでに身近な存在となっています。一度食べたことのある、もしくは、聞いたり見たことのある韓国の「食」について紹介します。</p>			
講師からのメッセージ			
韓国からやってきた友人から韓国のことを聞くような雰囲気での授業ができればうれしいです。よろしくお願いします。			

## 神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	国際協力・交流コース	学年	1年
講義日	令和5年5月11日(木)		
テーマ	PHD 協会の活動と NGO 論		
講師	公益財団法人 PHD 協会 事務局長 坂西卓郎		
講義内容			
<p>1. ねらい</p> <p>神戸の国際協力 NGO である PHD 協会の活動を通じて、国際協力・多文化共生への理解を深める</p> <p>2. 主な内容</p> <p>午前:PHD 協会の活動紹介及び SDGs導入、じゃんけんワークショップを通じて国際協力への理解を深める</p> <p>午後:PHD 協会2023年度研修生としてインドネシアの方、ミャンマーの方にそれぞれ日本語で就寝地域の状況や日本での研修目的などを報告してもらう。各研修生のテーマは以下の通りである。</p> <p>インドネシア・アギーさん:村の助産師。助産師だが、お産だけでなく、病気やケガなど広く対応する医療従事者。村の健康と福祉を増進するために日本で研修を行う。</p> <p>ミャンマー・トウトウウェイさん:スラムのフィールドワーカー。ストリートチルドレンや児童労働従事者の子ども達20~30人のケアを行う。子どもたちは学校に行っていないので、初等教育やケガなどの対応も行うソーシャルワーカー。</p>			
講師からのメッセージ			
<p>例年、国際友の会の皆さんには上記研修生への日本語教育でお世話になっています。お世話になった日本語で当日は精一杯発表させていただきます。ぜひ研修生達の声も聴いてもらえたらと思います。</p>			

## 神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	1年
講義日	令和5年6月8日(木)、6月15日(木)		
テーマ	中国——国家観の変遷と今日の少数民族政策		
講 師	神戸大学名誉教授・国際交流研究センター連携フェロー 王 柯		
講義内容			
<p>「中華民族の偉大な復興」とは現在の中国政府、とりわけ中国共産党総書記(国家主席)習近平の愛用する言葉である。しかし事実上 1900 年以前の中国には「中華民族」という実体もなく言い方もなかった。歴代の中国の王朝は一貫して「天下」を標榜し、その目的は多くの民族集団をその統治下に置いていることを強調するためだった。20 世紀に入ってはじめて「中国は中華民族の国家」という言説が現れた。では、中国における「天下」の国家と「民族」の国家はどう違うのか、なぜ歴史上の中国王朝は「天下」を強調し、19 世紀から 20 世紀への変わり目に近代中国の政治家たちが中国は「民族」国家と言い出したのか、さらに、事実上多民族国家である中国が「中華民族」の国家とされてから各民族間の関係は中華民国政府によってどのように処理され、とくに一党独裁体制の中華人民共和国政権の時代にどのように変わったのか。</p> <p>以上の問題意識に基づき、一日目の講義では中国における「天下」思想の誕生と「天下」を求める王朝の歴史をまとめ、その上で 20 世紀初頭における「民族」国家思想の誕生原因を説明し、中華民国時代と中華人民共和国時代の民族政策の変遷を、漢民族と満洲族・チベット・モンゴル・ウイグルとの民族関係に併せて分析する。二日目の講義では、視点を現在国際社会から注目されている新疆ウイグル問題に絞って、まず現在新疆ウイグル自治区で発生している問題を国際法上のジェノサイドの定義に併せて分析し、その上にウイグル民族による抵抗の歴史を解説する。</p>			
講師からのメッセージ			
<p>いまの中国問題に関心ある方は、拙著『ハイテク専制国家・中国』(王力雄との共著)、編著『「友好」のエレジー、中国人が見る「日中国交正常化五十年」』(いずれも藤原書店、2022 年)をご参考ください。</p>			